

『もうシニアなんて呼ばせない！つなげ若者との絆～実りへの感謝～』プロジェクト

提案団体：医療福祉学科

代 表 者：医療福祉学科 3年 下村 友美

顧 問：医療福祉学科 講師 池田 明子

実 施 計 画

実施期間 2014年10月23日（木）～2014年12月20日（土）

奨励金額 116,460円

活動目的 学生が地域の人々（主に友愛のメンバー）と相互に交流をもつ。また、さつまいもの栽培方法を教えていただきながら、収穫した産物と一緒に料理を作り、地産地消の料理を味わい、食につながる生命の大切さを知る。そのことを通じて地域との交流を広げていく。

計画概要 借りた畑で野菜栽培・2度の食事会開催

パートナー 友&愛を応援する会（友愛会）、東広島市社会福祉協議会 黒瀬支所

活動・成果報告

11月22日（土）と12月20日（土）の2回にわたり、黒瀬保健福祉センターにて料理教室と食事会を友愛会のメンバーをはじめとする体操教室の方々とはじめとする地域の方々とともに開催した。

11月22日は、黒瀬保健福祉センターの横の畑をお借りして植えた、さつまいもを使用して雑穀入りさつまいもご飯、焼き芋を作った。また、友愛会の方から一部野菜を提供していただき、てんぷら、さつまい、ポテトサラダ、野菜サラダを作り、参加者の方々と一緒に食べた。

12月20日はクリスマス会を開催し、本会でも友愛会の方から一部食材を提供していただき、ポトフ、ちらし寿司、手作りピザ、マカロニサラダ、唐揚げ、野菜サラダ、ケーキを作った。この他にも、友愛会の方が前回余ったさつまいもを使い大学いもを作ってくださった。これらの料理を、ワンプレートと一部バイキング形式に並べ、参加者の皆さんに好きなものを好きな量だけ取っていただく形で、食事をした。

この2回の料理教室、食事会を行い、友愛会の方々をはじめとする体操教室に参加して下さるの方々、そして地域の方々と学生とで、調理と食事と一緒にを行い、食後に軽いレクリエーションをする事によって交流を深めることが出来た。

成 長 度

1. どのような課題に直面し、（それを乗り越えるために）どんな苦労がありましたか。

- ・学生と友愛会の方と連携をとっていく難しさ
- ・1回目の料理教室では役割分担をうまくすることができなかった

2. その課題をどのような努力や工夫で乗り越えましたか。

- ・学生の授業の関係もあり、話し合いをする機会をなかなか持つことが出来なかったが、時間を見つけ、前もって話したいことや伝えたいことをまとめ、意見交換をしたり情報交換をし連携を図っていった。
- ・話し合いをしたときにその場にいなかった人が、当日の参加者に誘われて調理に参加されて人数が合わないことがあったため、2回目の料理教室の時には、事前に数回確認をとり調理参加者の人数を確実に把握するようにした。

3. 企画に参加したパートナーからの感想や気づき

広島国際大学と東広島市黒瀬町社会福祉協議会との共同事業で、高齢者65歳以上の参加資格者活動が、今年も継続され私たち地域の者として感謝します。例年であります、先生と学生が一緒になっての活動でしたが、時間的に先生と調整が取れない状況で、芋の苗植えから収穫、料理会とクリスマス会の2回一緒に活動した思い出があります。学生の皆さんには、料理の献立から食材の調達まで自分たちでしていただき、私たちは学生の皆さんの依頼のもと、一緒に調理や部屋の装飾をし、とても楽しく美味しい料理会とクリスマス会を開催することが出来ました。

また、1年間を通して学生さんの成長を強く感じました。広島国際大学の福祉関係に携わっている学生さんと接することで、私たちは安心して年を重ねていけますことを痛感しました。

来年度もこの事業が継続されることを地域みんなが強く希望しています。

友&愛を応援する会

構成メンバー（学部・学科・年次・氏名）

医療福祉学科	4年	大下真、寺西禮司、松浦洋介、木下紗妃奈、久保奈津美、住吉春香、 中村果歩、窪田隼人、小林聖史、坂本美華、綱掛愛美、花光翔太、 上田裕子、岡野大地、藤井庸平、渡部健太
	3年	柏原睦、崎井優香、重永美紅、富田康稔、二五田季実、西谷祥 落合貴子、下村友美